



知財ってなんなんでしょうね

昭和62年卒 西村 竜平 (弁理士)

各先進国で知的財産制度が重要だと言われ始めて久しい。米国では1980年代のレーガン政権時にアンチパテント政策からプロパテント政策（パテント保護政策）に転換され、日本でも小泉政権時に知財立国宣言がなされた。以来、企業のみならず大学や国の研究機関までもが争って特許出願をするようになり、あるいは著作権に関する多くの争いが見られるようになってきた。その他、近年よく耳にするのは、中国での第三者による商標権の取得問題である。

知的財産には、上述した発明や商標の他、ご存知のように、考案や意匠、著作物、秘密情報などがある。これらは土地や機械などの実体のあるものではなく、いわゆる人間の頭の中でのみ認識される情報の一種である。例えば、商標は、それ自体は単なる模様や記号、文字の羅列であるが、人間がそれを認識することによって、ブランドや信頼感に変換される。そして、このような知的財産に独占権を与えてこれを模倣等から守ろうとする制度が、今の知的財産権制度（知財制度）である。

教科書では以下のような旨で知財制度の必要性を説いている。

仮に知財制度がなかったとすると、発明や商標が真似し放題になり、最初に考えてそれに資源を投資した人が損するし、世の中に偽物が溢れかえって粗悪品を掴まされるといった弊害が生じる。特に、最近では、あらゆる分野で簡単にコピーができるようになってきており、かつ、インターネットを利用して世界中に情報を簡単に発信できるからこそ、真似されたときの被害は大きいという背景もあって、本物を模倣から守るという知財制度は、益々重要になりつつある。

このような説明を受けると、今の知財制度の存在についてなんら疑問を唱える余地など無いように思えてくる。しかし、それは本当だろうか。

情報とは、実体のある土地や機械と違って、人に分け与えても減らないという特性がある。これを非競合性とか非排除性とかいう。つまり、良い情報であれば、

一人が占有するのではなく、人に分け与えることによって、皆がハッピーになるということが多分に生じる。ところが、今の知財制度では、情報の一種である知財に対し、本来の特性とは逆の特性である独占性や排他性を与えるのである。そうすると、当然のことながら、皆がハッピーになれない場合がでてくる。例えば薬価が下がらないのは特許のせいとも言われている。

そこで、もう一度、知財制度の必要性について考え直してみたい。

例えば、知財制度がないと、最初に考えた人が損するから、その人に独占権を与えてその損害を防ぐという点について考えてみる。では、独占権ではなく、報奨金などを与えても良いのではないだろうか。実際、ソ連はそのような制度をとっていたらしい。

また、知財制度がないと偽物（粗悪品）が出回って、それを買った人が困るという点についていえば、知財制度のない江戸時代に偽物が出回って庶民が困りに困ったという話はあまり聞かない。偽ブランドを掴まされても粗悪品で無ければいいのだし、粗悪品ならすぐに噂が立っておばちゃんを買わないだろう。おばちゃんは結構賢いのである。

こう考えてくると、今の知財制度の必要性に少々疑問が湧いてくる。実は密かにすごい得をして奴がいて、その既得権を死守すべく、この知財制度の維持を図っているのではないだろうか、とすら思うときもある（もちろん、私は弁理士であり、得している側なので、そんなことを言えた義理ではないのだが・・・）。

もっとも、知財制度の必要性に関するこの種の議論は昔からあるのであって、特に新しいものではない。また、私は知財制度を完全撤廃しろと主張しているのでもない。ただ、今の知財制度がちょっと権利保護側に傾きすぎており、結果、他人の知的財産を恐れるあまり、不必要な萎縮が生じているのではないか、という観点から筆を取った次第である。

最後に一言。

今、日本で種々の規制を緩和可能な国家戦略特区が設けられようとしているが、どこかの特区で真似し放題、偽物OKの規制緩和をして、今の日本で知財制度がないと一体どうなるのか、実験してみてもはどうだろう。何を馬鹿なことを、といわれるかもしれないが、本当に必要な知財制度がわかるんじゃないだろうか。

済南滞在記

その六

1976 年卒 田中 庸彦

私は京都大学少林寺拳法部出身でもある。中国河南省嵩山少林寺を訪れるのは、私の永年の夢でもあった。

済南から河南省の省都鄭州まで、高速鉄道で約 6 時間。一等車で料金約 5,500 円。夜に鄭州に着き、ホテルの従業員に言われるままに、明日早朝一番の少林寺行きバス切符を購入した。約 1 時間半の乗車時間で約 500 円。次の日、朝早く目覚めた。一種の興奮状態にある。バス座席の隣に座った中国青年が、9 年ぶりに少林寺を訪れるという元拳士であるのも、興奮に拍車を掛けている。少林寺にたどり着いた。連休中とあって多くの車と人また人である。その中からニョキリと飛び出ている大きな像を見て、悪い予感がしてきた。



(写真十五)

案の定、武術館での演武にはがっかりした。

これはショーである。こんな筈ではなかったと、達磨大師が修行した達磨洞へ向かった。大師は面壁九年で悟ったというが、当方は面壁 20 数年ぞ、いまだ悟れず。壁は物言わぬだけましではないか、とぶつぶつ言いながら坂道を急いだ。ガイドブックには登り片道 2 時間とあるが、足まで

ぶつぶつ言い出したのか足早になり、一時間強でたどり着いた。若い頃鍛えた体力はまだ残っている（私は高校時代、サッカーの国体選手）。

塔林を訪れ、最後に、少林寺内へ参拝である。

中国式の寺は幾重にも本堂らしきものが立ち並ん



(写真十六) 達磨洞



(写真十七) 登ってきた道

でいる。もちろんお目当ては、映画でおなじみの修行でレンガ畳がへこんだという場所である。それは、一番奥にあった。これを実際に見ただけでも、大満足である。

さて、肝心の中国語学習の進歩の方である。

バス座席の隣に座った中国青年との会話。少林寺で4年間修業したという。日本にも大変興味がある様子で、北海道、新幹線、桜と話が弾んだ。もちろん中国語だけの会話である。これは良いひと時であった。少林寺から洛陽に向かうバスの運転手の話す言葉が聞き取れないので、「標準語で話せ」とこちらも図々しくなってきた。中国人を優先させて、雨の中置いて行かれそうになった。これぐらいのこと



(写真十八) 少林寺門

には気後れせず、他の客を抑え込んで乗り込んだ。これは悪いひと時であった。少林寺までの高速鉄道の中、隣座席に座っている中国人に私の方から話しかけてみた。職業は医者だという。日本人をどう思うか、と尋ねると「ペン（「竹」かんむりの下に「本」＜バカの意＞）。実はそうではない」とのっけからすごい会話になって来た。次に、「魚釣島—中国語では釣魚島と逆になる」の話を出してきたので、こちらも勢いで「歴史問題」の話を意図的に出してみた。彼が一挙に興奮し始め、声高にここに日本人がいると言い始め、前後の座席から中国人が

顔をのぞかせ始める。激論になりそうになってきた。かなり複雑な会話を、筆談を交えて中国語で一時間程した（文章だけなら、かなりの文字数を苦もなく書けるようになってきた。やはり、共通の漢字文化は助けになる。話す方も、声調を除けば私の発音はかなり良いようである。問題は聞く力であるが、英語でもヒアリングは良くない）。私の方からすれば、彼の論理は滅茶苦茶である。私が暫時席を外している間にこの中国人も反省したのか、その後落ち着いて話してくれるようになった。この感情の差し替えには感心した。

ひと時の瞬間の鮮やかな色彩を体験できるのは、良くも悪しきも、すべて中国語がうまくなってきたおかげである。

今度は台湾にでも行こうかな、この歳での「さすらいの旅」は、この後どうなっていくのか自分でもわからない。

（おわり）

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですが、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂く方が有り難いです。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

平成 27 年 中国四国支部・九州支部共同開催 春の行事のご報告

宇部興産セメント事業見学・講演会

中国四国支部年次総会・懇親会

ゴルフ交流会・萩山口観光ツアー・SLやまぐち号サブツアー

中国四国支部

九州支部

中国四国支部・九州支部では去る平成 27 年 5 月 23 日、24 日に合同で春の行事を開催しました。合同開催は初の試みでしたが、ご家族 10 名を含む計 46 名の方々がご参加下さり賑やかな行事となりました。藤原会長はじめ、大先輩の皆様も遠方から多数ご参加下さいました。以下概要につきご報告申し上げます。

1. 宇部興産グループセメント事業見学



宇部興産グループは化学部門、建設資材部門、機械部門を柱とした総合化学メーカーで、世界最大級のセメントメーカーであると共に、各種化学製品を製造し、自動車・鉄鋼等さまざまな分野へ供給されておられます。自社の工場で使用されている設備の多くを自社設計製造されており、プラント輸出も積極的に展開されておられます。中核事業であるセメント事業では、石灰岩露天掘り鉱山からセメント工場、鉱山地区と瀬戸内地区の工場をつなぐ専用道路、石灰やマグネシウムを原料とした各種化学製品の製造工場、専用港等々 セメント事業に関わるほぼすべての設備とインフラを自社で所有し管理されておられます。今回は短い時間ながら、その壮大なセメント事業展開の一端を見学させて頂きました。

宇部興産専用道路は全長 31.94km に及ぶ日本一長い構内道路で、瀬戸内海に面する宇部地区と秋吉台の傍にある伊佐地区の石灰石露天掘り鉱山やセメント半製品工場とをつないでいます。専用道路が宇部港を横断する箇所には橋長 1020m の鋼トラスト橋（興産大橋）がかけられています。この橋も宇部興産が自社で設計施工されたそうです。道路交通法が適用されないので 70t の大型トレー

ラーが走行出来ます。伊佐地区から宇部地区へは石灰石やセメント半製品を、又、宇部地区から伊佐地区へは石炭や燃料代替の廃棄物（汚泥残渣等）が輸送されます。一日最大10往復 35台の大型トレーラーがひっきりなしに走っていました。年間800万トン以上が輸送されているそうです。他社では経済性から数十キロの長距離コンベアを導入している例もありますが、



宇部興産では双方向輸送で様々な物資を輸送出来、資産利用面でもポテンシャルが高いことから、長期的視点で将来を見越して道路輸送を選択したとのことでした。

伊佐地区では石灰石露天掘り鉱山とセメント半製品のクリンカーを製造している工場をバスで巡回し見学しました。クリンカーの製造能力は世界最大級で、1450℃で生石灰を製造する設備をはじめ、巨大設備を自社で製造し管理しておられました。キルンの熱源は輸入石炭ですが、廃プラスチックや排水汚泥残渣などの廃棄物も石炭代替の燃料としてサーマルリサイクルしているとのことでした。年間400万トン近いセメント半製品（クリンカー）を製造する世界最大級の工場です。

伊佐石灰石鉱山は圧巻でした。1948年出鉱当時は200mの高さの石灰岩の山のふもとから掘削を開始したそうですが、70年を経てその石灰岩の山は姿を消し、今は深さ約130m、直径1.5kmのすり鉢状の露天掘り鉱山に形を変えながら掘削を続けています。更に200m掘っても石灰岩が存在することは確認されているそうですが、経済性からもう50m掘り進んだところで掘削を終了する予定とのことでした。現代の文明がコンクリートに支えられていることを再認識すると共に、資源としてコンクリートを捉え、有効に永続的に活用する事業展開や技術開発が益々重要になってゆくことを痛感しました。



帰りの車中で中国四国支部の年次総会を行い、平成26年度決算と平成27年予算、支部役員の改選、支部規約の改正について説明し、支部会員の皆様からご承認を頂きました。講演会および懇親会は宇部興産(株)が保有される宇部72アジスパホテルにて行いました。講演会では、宇部マテリアルズ(株)の白井秀平取締役から宇部興産のセメント・マグネシウム関連のマテリアル事業の業容をご紹介頂きました。カルシウムやマグネシウムを高純度生成物に加工することで高い付加価値を生み出されることを再認識しました。懇親会では日ごろの単独支部での行事ではお会いする機会の少ない他支部の方々ともゆっくり歓談出来ました。話は尽きず、夜遅く二次会まで盛り上がりました。

(つづく)



昭和28年（新制）卒クラス同窓会（悟美会）

本会では、平成27年5月12日（火）ホテルグランヴィア大阪でクラス会を行いました。出席者は次の13名でした。

足立、大路、角田、富室、中川（昭）、中川（隆）、西岡、西田、増田、松田、村上（重）、村山、山田。

全員、85歳前後ですが、皆元気そうで、お互いに自分の健康状態などについて情報交換し合い、それぞれの近況を語り合いました。

鳥取市から参加の松田氏は、工場の少ない鳥取での中小企業工場経営の現状について話し、社長をこどもに譲り、会長として自社経営にいらみをきかせており、また、先祖代々から遺されてきた手回し旋盤など古い工作機械の博物館への寄贈問題について苦慮していることなどを話した。また、神奈川県小田原市から参加の中川（昭）氏は、小田原市の観光について尽力しており、持参した提灯を披露した。このように今回は出席者が多く盛会であった。（中川（隆）記）



【暇人のつぶやき】

位取りのカンマ

松久寛（1970年卒）

現在の位取りは3桁ごとにカンマを打つ。大きな数字に慣れていないので、100,000,000円と書いてあると、毎回、一十百千万・・・と数えて1億円であることが分かる。1,0000,0000円とカンマが4桁ごとにあれば、一目で1億円と分かるのに。漢語の万、億、兆の4桁ごとの位取りが、英語のthousand, million, billionの3桁ごとの位取りに負けたのである。しかし、K（キロ）、M（メガ）、G（ギガ）は抵抗なく使える。やはり、大金に慣れていないからであろう。

1. 2014 年度 日本の国際競争力調査結果 2015.05.19 日本経済団体連合会

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049.html>

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf

調査の総括

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf#page=3

1. 調査の概要

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf#page=4

2. 日本企業の国際競争力

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf#page=5

2-1 競合企業の国籍

2-2 競争力の現状と見通し

2-3 自社の強みと弱み

2-4 競争力強化に向けた今後の取組み

3. 日本のビジネス環境に関する評価

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf#page=9

3-1 ベンチマーク国

3-2 日本のビジネス環境の現状と見通し

3-3 日本のビジネス環境の個別評価

3-4 日本のビジネス環境の現状と課題

4. 事業活動の立地判断

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/049_honbun.pdf#page=15

4-1 2014 年における立地判断の状況

4-2 対象となった国・機能

4-3 判断において決め手となった要素

4-4 拠点の展開状況

4-5 日本に残すべき機能とその理由

2. 福岡の国際競争力に関する研究 - IRBC 参加非首都 6 都市の比較分析 -

福岡アジア都市研究所

<http://urc.or.jp/h26sougoukyousou-final>

http://urc.or.jp/wp-content/uploads/2015/04/CitiesOnTheThirdAxis_2015.pdf

本研究では、福岡と類似性を有している、首都・経済首都でなくメガ・シティでもない5つの都市（シアトル・バンクーバー・メルボルン・ミュンヘン・バルセロナ）を「第3極」の都市と名付け、それぞれの国際競争力を比較し、その研

究結果をとりまとめました。福岡は「生活の質」においては他都市と同等の評価を有するものの、「都市の成長」においてはまだまだ成長の余地がみられました。福岡の今後の戦略は、高い「生活の質」を維持しながら、「都市の成長」を持続的にもたらすことにあります。「グローバル創業・雇用創出特区」、「天神ビッグバン」による大幅な経済波及効果が見込まれるなか、福岡空港や国際展示場等の整備にともない社会・経済指標を20%上昇させる未来シナリオを描くことで、生活の質だけでなく都市の成長においても他のグローバルシティと並ぶ高い水準の達成が可能となることが予測できました。

3. 主要50カ国“デジタル経済”発展度ランキング

2015.05.15 Harvard Business Review

<http://www.dhbr.net/articles/-/3279>

e コマースの発展が最も急速に進んでいる国はどこか。タフツ大学の研究者らが独自の指標を基に、50カ国におけるデジタル経済の「勢い」を可視化した。欧州諸国や日本を含め、高度のデジタル環境がありながら停滞している国々も少なくない。

4. 企業ランキングで見る日米の成長性の大きな差

2015.5.7 DIAMOND Online 野口悠紀雄

<http://diamond.jp/articles/-/70902>

アメリカ経済を牽引しているのは新しい産業であると前回述べた。今回は、個別企業の観点から、この状況を見よう。

5. ジャパンパッシングは終焉した：スリーエムが再認識した日本市場の魅力

2015.5.27 日経ビジネスOnline 三村浩一

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20150526/281617/>

日経ビジネス本誌5月25日号の特集「JAPAN RUSHING ～世界の企業は日本を目指す～」では、日本に世界中の企業が殺到している姿を描いた。中国などアジアの台頭による「Japan Passing (ジャパンパッシング、日本を素通り)」から「Japan Rushing (ジャパンラッシング、日本へ殺到)」へと変わりつつある。今回はそうした世界企業の1つ、米スリーエムを取り上げる。同社は日用品や工業製品など幅広く手掛け、付箋「ポスト・イット」や「セロハンテープ」などを開発したことで知られる。2014年12月期の連結売上高は318億ドル（約3兆8700億円）。そのグローバルの巨人が今、日本市場を強化する戦略に大きく舵を切った。狙いは何か。スリーエムジャパン・三村浩一社長に聞いた。

6. 持続的成長への挑戦：組織の自己変革力とは何か

(前編) 日本の強み「顧客志向」こそが世界で勝つための突破口になる！

<http://diamond.jp/articles/-/69922>

(後編) 信頼されるには、まず信頼する—「心」で人を動かすリーダーシップ

<http://diamond.jp/articles/-/69923>

構造改革を経て多くの日本企業が過去最高益を記録している。とはいえ、未来に目を向ければ「持続的成長の実現」は依然として大きな課題だ。そして、持続的成長を可能にする鍵は、時代を先取りして自らが変革し続けることができるかどうか、すなわち組織の「自己変革力」である。多数の企業変革に関わってきたデロイト トーマツ コンサルティング パートナーの松江英夫が、経営の最前線で果敢に挑み続ける経営トップとの対談を通じ、持続的成長に向けて日本企業に求められる経営アジェンダと変革の秘訣を解き明かす。今回は、GE グローバル本社役員で日本 GE を率いる熊谷社長にご登場いただいた。その言葉からは、グローバル企業の日本法人だからこそ見えてくる「日本の強み」や、その強みを生かした成功事例からドメスティック企業が抱える問題のブレイクスルーのヒントが見えてくる。先週に引き続き日本 GE の熊谷氏に伺う今回は、失敗を恐れるあまり「挑戦」に逡巡しがちな日本人気質を打破し、挑戦を促す GE の取り組み、またリーダーシップ論について聞いた。

7. 2014 年度産業向け財・サービスの内外価格調査 経済産業省

<http://www.meti.go.jp/statistics/san/kakaku/result-2.html>

経済産業省では、国内外において企業間で取引される各種財、産業向けサービスに係る価格を調査し、我が国のコスト構造の実態について把握、分析を行うことを目的として、1993 年以降、産業向け財・サービスの内外価格調査を行っている（2010 年度までは「産業の中間投入に係る内外価格調査」として実施）。今般、2014 年度調査の結果を取りまとめたので、これを公表するものである。

◆ 2014 年度報告書本文

http://www.meti.go.jp/statistics/san/kakaku/result/result_14/pdf/houkokusho_2014.pdf

◆ 2014 年度本文掲載図表

http://www.meti.go.jp/statistics/san/kakaku/result/result_14/xls/keisaizuhyou_2014.xls

◆ 2014 年度品目別内外価格差・購買力平価

http://www.meti.go.jp/statistics/san/kakaku/result/result_14/xls/hinmoku_2014.xls

◆ 2014 年度品目・スペック表

http://www.meti.go.jp/statistics/san/kakaku/result/result_14/xls/spec_2014.xls

8. 外国人材の活用に向け求められる制度の再構築

日本総合研究所

—海外事例にみる外国人政策の視点—

<http://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/8183.pdf>

1. はじめに

2. わが国における外国人材受け入れの現状

(1) わが国の外国人政策と外国人材受け入れの現状

(2) わが国が直面する労働力人口の減少

3. 各国の外国人政策の概要と評価―転換期を迎える外国人政策

(1) イギリス

(2) ドイツ

(3) 韓 国

4. わが国への示唆

(1) 制度の適正化に向け検討すべき事項

(2) 受け入れ企業の体制整備に対する支援

(3) 長期的な展望を踏まえた環境整備の必要性

9. 産業競争力会議 第22回 実行実現点検会合

(テーマ：女性の活躍推進)

H27.05.26

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/siryou.html>

資料1 前回点検会合（女性の活躍推進）における主なご指摘事項

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/siryou1.pdf>

資料2－1 内閣府・内閣官房提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/siryou2-1.pdf>

資料2－2 厚生労働省提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/siryou2-2.pdf>

資料3 小室議員提出資料

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/siryou3.pdf>

参考 成長戦略進化のための今後の検討方針（H27.1.29 産業競争力会議決定）（抄）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai22/sankou.pdf>